

普及活動情勢報告（令和6年5月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

高品質な米の生産に向けて ～水稻除草剤展示ほ場の設置～



展示ほ場

4月18日、中土佐町上ノ加江に、農薬メーカーの協力のもと、水稻除草剤展示ほ場を設置しました。

除草剤展示ほ場は、「農薬登録された除草剤の県内での普及性を評価する」ために設置するもので、本年度は、初・中期一発処理剤の除草効果や、水稻への薬害等について定期的な巡回調査により確認します。

今後は、調査結果を生産者等に情報提供します。

災害リスクに備えよう ～JA津野山みようが部会現地講習会～



情報交換の様子

4月18日、津野町桑ケ市のミョウガ栽培ほ場及び作業場において、現地講習会が開催され、生産者19人が参加しました。

本講習会では、養液管理や温度管理、害虫発生などについて活発な情報交換がなされるとともに、栽培管理内容を確認し合いました。

普及課からは、4月に発生した地震を受けて、災害リスクに備えるための燃料タンク対策事業について説明を行い、2人から「設置を考えたい」と相談がありました。

農業改良普及課は引き続き、生産性の向上に向け、生産者間の情報交換を支援します。

ポンカンの炭そ病対策を徹底しよう ～立目ポンカン出荷組合「炭そ病対策検討会」～



炭そ病防除対策について、熱心に意見交換する生産者ら

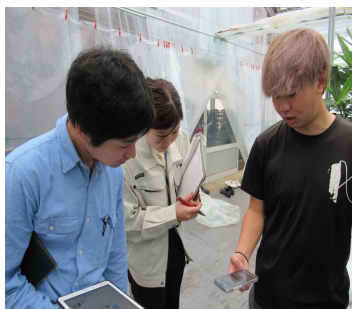
4月22日、須崎市の立目集会所で、ポンカンの炭そ病対策検討会を開催し、生産者9人が参加しました。

農業改良普及課は、昨年度に農業技術センターと実施した現地薬剤試験結果をもとに作成した防除暦を用いて、炭そ病の防除時期などについて説明しました。

参加者からは、「防除の重要性がよくわかった」「被害は減少しているが、まだまだ心配がある」との意見がありました。

農業改良普及課は、今後もポンカンの炭そ病の適期防除指導に取り組みます。

さらなる所得UPを目指して ～JA 土佐くろしおミョウガ新規就農者巡回～



新規就農者と環境データを
確認する普及指導員

5月1日、須崎市と中土佐町のミョウガ新規就農者7人のほ場を、JAと連携して巡回指導しました。

農業改良普及課は生育調査、栽培管理の説明、病虫害の発生状況等の聞き取りを行い、環境データの確認を促し、今後の栽培管理の注意点についてアドバイスしました。

新規就農者からは「初夏の栽培管理で特に気をつけるべきポイント（かん水量を増やす等）を知ることができて良かった」「今後も定期的にミョウガの生育状況を確認し、助言してほしい」といった声がありました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、新規就農者の技術習得を支援します。

農地利用のために ～地域計画策定に向けた広域連絡会～



各機関から報告を受ける参加者

5月9日、須崎総合庁舎会議室で、高知市及び四万十町の職員を講師に迎え、地域計画の策定に向けた広域連絡会を開催し、須崎農業振興センター管内市町、農業委員会事務局、JA及び県職員36人が参加しました。

令和6年度の策定作業の進め方、高知市や四万十町の目標地区の事例を共有し、今後の各市町の策定スケジュールなどを報告し合いました。

農業改良普及課は、将来の最適な農地利用のために、地域計画の策定の取り組みを支援します。

農福連携による除草作業などを体験 ～作業体験会～



ブルーベリーの除草作業を見学する関係者ら

5月10日、須崎市で「いちかわファーム」と共同作業所「ゆら・ら」の5人が連携して農作業体験会を開催し、須崎市福祉事務所、須崎市生活支援・総合相談センター、県農業会議等の関係機関の職員8人が参加しました。

農業改良普及課は、開催に向けた共同作業所と関係機関との調整などを支援しました。

体験会では、作業所の利用者2人がほ場の除草作業などを体験し「外での作業で暑かったが、楽しかった」などの声が聞かれました。園主も、作業の内容やスピード等について確認していました。

農業改良普及課は今後も、農業者側、障害者側の要望を捉えて、農福連携の取組を支援します。